

世羅町立甲山中学校「プロジェクト型学習」単元計画

Serappy Project

～外国人をエスコートして幸せあふれる町へ～

学年・教科	第3学年・総合的な学習の時間
指導者	藤井大誠教諭（3学年担任）、村上勇教諭、吉儀由夏教諭（特別支援学級担任）、松田菜々教諭
単元名	地域貢献活動
学習テーマ	世羅町をもっと元気にしよう！
関連SDGs	11 住み続けられるまちづくりを

単元情報

（1）単元計画の概要

本校では学校教育目標を「他者や郷土を大切に、自ら進んで学び、何事にも一生懸命に取り組む生徒の育成」とし、「一生懸命はかっこよく美しい」を合言葉に様々な教育活動に取り組んでいる。

そこで、第3学年においては「世羅町をもっと元気に」をテーマとし、地域貢献活動に取り組むことを目的とした単元を設定した。様々な地域貢献活動が考えられるが、生徒自身が地域のためにできることを考え、意見を出し合い、そのための活動を生徒自身で決定させたい。昨年度、生徒が取り組んだ世羅町のPR動画作成で得た知識や技能等を活用し、今年度は「外国人に世羅町をエスコートし、魅力を発信する。」ことを単元のゴールとして設定した。また、教科横断的な取組の充実も視野にいれ、生徒の思考力・判断力・表現力の育成を目指したい。

（2）育成したい資質・能力

【自発性】

- 直接的な指導がなくても、課題設定、作業の優先順位の設定、課題解決を行う。
- 自ら課題を見つけ、チャレンジする力を育成する。
- 自ら学習の進捗管理をする力を育成する。

【コミュニケーション能力】

- 伝える能力及び受け取る能力を育成する。
- 非言語コミュニケーション能力を育成する。（プレゼンテーションやポスター等の作成を通して）

（3）単元の目標

地域の魅力を日本文化に興味がある外国人に紹介する活動を通して、地域の広報活動の現状や他地域の取組についての理解、紹介ポスターや動画等の作成技術を身に付けることができる。また、他教科との関連を取り入れた革新的なPR方法を協働的に探し求めながら、自発的に課題発見・解決学習を行うことができるようになる。

（4）他の教科等との関連

- 社会科「日本の諸地域」
- 数学科「データの分布」
- 英語科「日本文化を紹介しよう」
- 道徳科「住みよい社会に」

生徒の実態

(1) 学年の雰囲気

本学年の生徒は主体的に活動を進めたいという意識が高く、総合的な学習の時間が充実していると感じている生徒が多い。実際に、3月に行った「探究的な学びの充実のためのアンケート項目」において、「総合的な学習の時間での学びは充実していますか。」では、肯定的評価が93%となっている。具体的に理由を聞いてみると、「生じた課題をどのように解決したらよいか考えることが楽しい。」や「クラスの仲間と協力して何かを作ったりすることが楽しい」など、総合的な学習の時間について、楽しさを感じるにより充実していると捉えている生徒が多いことが窺える。

一方で、当該学年のプロジェクトの内容は、「町外に在籍している外国人に世羅町の魅力を伝える」ことを通して本質的な問いに迫るものである。このことに関して、教科横断的な視点に基づくアンケートを実施した。その結果「英語科で学習したことを総合的な学習の時間で活かすことができますか？」という項目の否定的評価は46%（37名中17名）であった。このことから、他教科で学習したことを総合的な学習の時間に生かされていない生徒もいることが分かった。しかしながら、本プロジェクトを進めていくにつれて、「英語を使って表現しなければいけない。」という気持ちや、「この表現は英語でどのように伝えるんだろう。」という疑問も生徒の振り返りから出てきた。このことから必要性を感じ始めている生徒も増えてきていると考えられる。

(2) 資質・能力に係る状況

本校では、資質・能力に係る状況を把握するためにルーブリック評価を行っている。9月末までのルーブリック評価によると、本学年の生徒は、図1に示すような資質・能力の増減が見て取れた。このグラフからは、資質・能力の高まりが見えづかったが、「探究的な学びの充実のためのアンケート」において、「自分自身の自発性は高まりましたか」という項目と「自分自身のコミュニケーション能力は高まりましたか」の項目で、それぞれ肯定的評価が、91%（図2）と90%（図3）となっていることも分かった。生徒は自身の資質・能力の高まりについて肯定的に評価をしている。

しかしながら、コミュニケーション能力の1つの要素である、「話す力」の育成については不十分だと考える。今年度実施した、「全国学力・学習状況調査」の当該学年の英語科における「話すこと〔やりとり〕」の正答率は11%（全国比-1.4ポイント）だった。そのため、獲得した知識及び技能を用いて表現する力の育成を目指したい。

そこで、総合的な学習の時間においては、他教科との関連が持てるように課題設定を工夫する（教科横断的な視点）こと、グループワークなどを行う際にはファシリテーターを設置し、会話の視点を明確にした上でメンバーに発言を促し、自分の意見を伝えることができる環境にしていく。

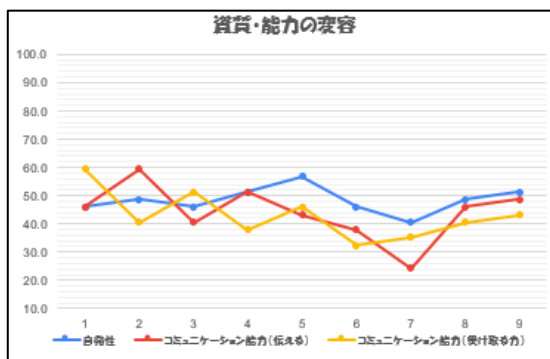


図1

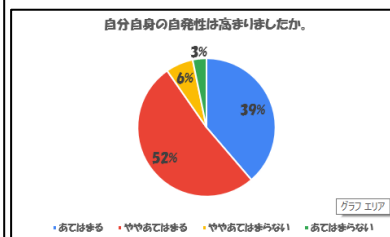


図2

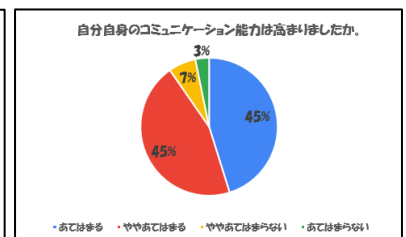


図3

評価ツール

【資質・能力の自己評価用ルーブリック】

①自発性

A	B
①自分たちの学習活動を振り返り、②因果関係を踏まえ新たな問いを立て、③他教科との関連を意識して、④活動できた。	①自分たちの学習活動を振り返り、②効果的・効率的に学習を進めるために問いの立て直しを行いながら、③活動できた。
上の番号を使って今日の自分を見直してみよう。(◎・○・△)	
①	①
②	②
③	③
④	
具体的に振り返りを書こう	

②コミュニケーション能力(伝える力)

A	B
①自分たちの考えなどを伝える際に、②場の状況に応じた資料や機器等を用いて、③相手や目的を意識した伝え方ができた。	①自分たちの考えなどを伝える際に、②根拠が明確になるようにして、③相手や目的を意識した伝え方ができた。
上の番号を使って今日の自分を見直してみよう。(◎・○・△)	
①	①
②	②
③	③
具体的に振り返りを書こう	

③コミュニケーション能力(受け取る力)

A	B
①相手が発信している情報に対して、②自分たちのものと比較し整理したうえで、③自分たちの考えを広げることができた。	①相手が発信している情報に対して、②自分たちのものと比較しながら、③受け止めることができた。
上の番号を使って今日の自分を見直してみよう。(◎・○・△)	
①	①
②	②
③	③
具体的に振り返りを書こう	

単元指針

(1) プロジェクト型アプローチの視点 (①答えのない問い ②実生活・実社会の課題 ③社会へ還元する)

- ①「世羅町をもっと元気にするためには」を問い、今まで自分たちが取り組んできたことで身に付けた力を用いて、新たに出会う様々な課題の中から自分たちが関わっていけそうな方法を模索させる。
- ②プロジェクトによる探究を通して、地域の現状や課題についての理解を深める。
- ③プロジェクトの成果を地域に発信し、活用してもらうことを通して、地域社会に学習成果を還元させる。

(2) 評価規準

A【知識・技能】	B【思考・判断・表現】	C【主体的に学習に取り組む態度】
①地域の観光の現状について専門的に理解している。(自発性) ②世羅町の魅力を相手に伝えるため、ICT機器を活用しながら、相手や目的を意識して分かりやすく伝えている。(コミュニケーション能力) ③地域について探究してきたことを通して、自分たちの行動が地域の発展に大きく関わっていくことを理解している。(自発性)	①ブレインストーミングやKJ法等を用いた交流を通して、自発的に課題を設定することができる。(自発性) ②必要な情報を幅広く効率的に収集することができる。(自発性) ③ブレインストーミング等を効果的に活用し、収集した情報をもとに革新的なアイデアを生み出そうとしている。(自発性) ④相手や目的に応じて効果的で適切な方法で表現をすることができる。(コミュニケーション能	①直接的な指導がなくても、課題設定、優先順位の設定、課題解決を行うことができる。(自発性) ②自らの意見や考えを持ち、他者の意見も尊重しながらより良い方法を検討しようとしている。(コミュニケーション能力) ③自分たちが地域社会のためにできることを考え、具体的に行動に移そうとしている。(自発性)

	カ)	
(3) 質問		
本質的な問い	「世羅町をもっと元気にする」ために自分たちにできることは何だろう。	
単元を貫く問い	観光客を呼び込むために自分たちにできることは何だろう。	
個別の問い	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度のプロジェクで自分たちはどのような力が身に付いただろうか。 ・今自分はどんなことに興味関心があるのだろうか。 ・最高学年として、どのようなプロジェクトに取り組めばよいだろうか。 ・最終ゴールへ向けて、どのような計画が必要だろうか。 ・どんな観光ルートが考えられるだろうか。 ・外国人はどのような場所に行きたいと思っているのだろうか。 ・聞き取ったニーズを可能な限り実現させるためにはどのようなルートがよいだろうか。 ・最適な案内ルートはどのようなものだろうか。 	

学習活動の構想

(全 60 時間)

学習段階 (探究の過程)	学習活動 (個別の問い ・ 生徒の活動)	評価		教材および ICT 活用
		評価規準	評価方法	
課題設定 (7 時間)	Q. 昨年度のプロジェクで自分たちはどのような力が身に付いただろうか。 ・昨年度の取組を振り返らせ、身に付いた力や、もっとやってみたかったことについて整理する。	A③地域について探究してきたことを通して、自分たちの行動が地域の発展に大きく関わっていくことを理解している。(自発性)	・行動観察	・電子黒板 ・作成した動画 ・ループリック
	Q. 今自分はどんなことに興味関心があるのだろうか。 ・各自、セルフマインドマップを作成する。	B③ブレインストーミング等を効果的に活用し、収集した情報をもとに革新的なアイデアを生み出そうとしている。(自発性)	・ワークシート	・セルフマインドマップ ・ループリック
	Q. 最高学年として、どのようなプロジェクトに取り組めばよいだろうか。 ・今までに獲得した力や、他教科との関連を意識させ、新プロジェクト案を考える。	A①地域の観光の現状について専門的に理解している。(自発性) B①ブレインストーミングやKJ法等を用いた交流を通して、自発的に課題を設定することができる。(自発性)	・ワークシート ・ホワイトボード	・電子黒板 ・ループリック

	<p>Q. 最終ゴールへ向けて、どのような計画が必要だろうか。</p> <p>・単元の最終ゴールへ向けて、今の自分たちにはどんな取組が必要なのかを考える。</p>	<p>C①直接的な指導がなくても、課題設定、優先順位の設定、課題解決を行うことができる。 (自発性)</p> <p>C②自らの意見や考えを持ち、他者の意見も尊重しながらより良い方法を検討しようとしている。(コミュニケーション能力)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボード ・模造紙 ・ジャムボード 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャムボード ・ループリック
情報収集 (6時間)	<p>Q. どんな観光ルートが考えられるだろうか。</p> <p>・昨年度作成したPR動画に出てくる観光地や世羅町ならではの場所を含むルートを考える。</p>	<p>B②必要な情報を幅広く効率的に収集することができる。 (自発性)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・Google map ・ループリック
	<p>Q. ルートにはどんな場所を盛り込めば世羅の良いところが伝わるだろうか。</p>	<p>A①地域の観光の現状について専門的に理解している。 (自発性)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・Google map ・スライド
	<p>Q. 外国人はどのような場所に行きたいと思っているのだろうか。</p> <p>・広島大学に在籍している留学生とオンラインで繋がり、ニーズを聞き出す。</p>	<p>A②世羅町の魅力を相手に伝えるため、ICT機器を活用しながら、相手や目的を意識して分かりやすく伝えている。 (コミュニケーション能力)</p> <p>B④相手や目的に応じて効果的で適切な表現をすることができる。(コミュニケーション能力)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・Google meet ・行動観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・Google meet ・ループリック
整理分析 (6時間)	<p>Q. 聞き取ったニーズを可能な限り実現させるためにはどのようなルートがよいだろうか。</p> <p>・ルートはグーグルマップを活用しながら確定していく。</p>	<p>C②自らの意見や考えを持ち、他者の意見も尊重しながらより良い方法を検討しようとしている。(コミュニケーション能力)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・行動観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・Google map ・ループリック
第I期(19時間)(計 19/60時間)				

<p>課題設定 (3時間)</p>	<p>Q. 最適な案内ルートはどのようなものだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループが考えたルートを発表しあう。 参考にできる部分や改善点を伝えあう。 夏休みに取り組むべきことを確認する 今後の予定を再整理する。 	<p>B④相手や目的に応じて効果的で適切な表現をすることができる。(コミュニケーション能力)</p> <p>C③自分たちが地域社会のためにできることを考え、具体的に行動に移そうとしている。 (自発性)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 行動観察 	<ul style="list-style-type: none"> Google map ループリック
<p>情報収集 (4時間)</p>	<p>Q. 最適な案内ルートはどのようなものだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際に校外に出て、ルートの下見を行う。 自分たちが考えたルートがどれくらいの時間でまわることができるのか確認する。 	<p>C②自らの意見や考えを持ち、他者の意見も尊重しながらより良い方法を検討しようとしている。(コミュニケーション能力)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 写真 	<ul style="list-style-type: none"> Google Map ビデオ
<p>整理分析 (10時間)</p>	<p>Q. どんなルートがより効率的だろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光名所である、今高野山をルートに必ず盛り込んで考える。 お店の定休日なども考慮して考える。 留学生の交通手段についても考慮する。 下見をしたときの写真を共有する。 	<p>A①地域の観光の現状について専門的に理解している。 (自発性)</p> <p>B③ブレインストーミング等を効果的に活用し、収集した情報をもとに革新的なアイデアを生み出そうとしている。(自発性)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 写真 ホワイトボード 	<ul style="list-style-type: none"> クロームブック
<p>情報収集 (3時間)</p>	<p>Q. 当日のタイムスケジュールはどのようなものがよいだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 下見をしたときの写真を共有する。 お店の定休日なども考慮して考える。 	<p>C②自らの意見や考えを持ち、他者の意見も尊重しながらより良い方法を検討しようとしている。(コミュニケーション能力)</p> <p>A②世羅町の魅力を相手に伝えるため、ICT機器を活用しながら、相手や目的を意識して分かりやすく伝えている。(コミュニケーション能力)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ホワイトボード 行動観察 	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板

情報収集 (3時間)	Q. 自分たちが計画したルートは留学生の視点から見て、充実したものだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> 最終的な下見を行う。 ルートの決定を行う。 	C①直接的な指導がなくても、課題設定、優先順位の設定、課題解決を行うことができる。 (自発性)	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 	<ul style="list-style-type: none"> クロームブック
課題設定 (3時間)	Q. 当日の留学生の受け入れをどんな形にしたらいだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> 開会式でどんな受け入れ方をするか考える。 当日の全体のタイムスケジュールを考える。 	C②自らの意見や考えを持ち、他者の意見も尊重しながらより良い方法を検討しようとしている。 (コミュニケーション能力)	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 企画書 	<ul style="list-style-type: none"> クロームブック ドキュメント
まとめ・表現 (4時間)	Q. 自分たちが考案したエスコートルートで留学生たちは満足してくれるだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> 留学生をエスコートする。 臨機応変に行動する。 英語を可能な限り用いて案内する。 事後アンケートの協力を求める。 	B④相手や目的に応じて効果的で適切な表現をすることができる。 (コミュニケーション能力)	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 ループリック 	<ul style="list-style-type: none"> クロームブック
課題設定 (2時間) 【本時】	Q. より幅広い人に世羅町を知ってもらうために自分たちにできることは何だろうか。 <ul style="list-style-type: none"> 当日の成果や課題を出し合い、今後の方針を固める。 残りの総合的な学習の時間を把握し、可能な活動内容を決定する。 世羅の魅力が伝わる写真を展示する。 	C①直接的な指導がなくても、課題設定、優先順位の設定、課題解決を行うことができる。 (自発性) A②世羅町の魅力を相手に伝えるための表現技法を理解している。 (コミュニケーション能力)	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 ワークシート 企画書 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート クロームブック
情報収集 (4時間)	Q. どんな内容を盛り込めば世羅町の魅力が伝わるだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> マインドマップを活用し、発信内容の精査を行う。 分担を行う。 パンフレット等の作成物をどこに設置したらよいか考える。 	C②自らの意見や考えを持ち、他者の意見も尊重しながらより良い方法を検討しようとしている。 (コミュニケーション能力)	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> クロームブック ジャムボード スライド
整理分析 (2時間)	Q. 自分たちが作成しているパンフレットで本当に魅力が伝わるものになっているだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> グループごとに作成過程のものを共有しお互いにアドバイスを行う。 時間を調整しながら作成を行う。 	B①ブレインストーミングやKJ法等を用いた交流を通して、自発的に課題を設定することができる。 (自発性)	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 成果物 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート クロームブック

<p>まとめ・表現 (3 時間)</p>	<p>Q. パンフレットを設置した成果はどうだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 設置した後、継続的に設置したものの増減を見て、その成果を客観的に把握する。 • 必要に応じて、追加分を設置する。 • 本プロジェクトのまとめを行う。 	<p>A③地域について探究してきたことを通して、自分たちの行動が地域の発展に大きく関わっていくことを理解している。(自発性)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 行動観察 • ルーブリック 	<ul style="list-style-type: none"> • クロームブック
<p>第Ⅱ期(41 時間)(計 60/60 時間)</p>				

	<p>Ⅱ</p> <ul style="list-style-type: none"> PL が発表する。 <p>① 全体に共有する。</p> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><予想される生徒の反応></p> <ul style="list-style-type: none"> 甲山中校区だけでは観光できる場所が不十分であるから、世羅町全体をルートエリアにして考えた方がいい。 オリジナルの観光マップを日本語版と英語版で作成する。 パンフレットを日本語版と英語版で作成する。 観光マップやパンフレットを作成して、お世話になった観光できる場所に設置する。 </div> <p>② 他グループは、発表グループが設定したステップについて質問や考えをメモしておく。全グループ発表後に質問の時間を設ける。必要に応じてグループで感想を言う時間をとる。</p> <p>Ⅲ</p> <ul style="list-style-type: none"> PL がまとめながら考えをまとめていく。 現段階での意見をまとめる。 	<p>【例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆既に設置されているような観光マップやパンフレットでは効果は少ないのではないかな。 ☆どこに設置するのがいいだろうか。 →留学生が所属している大学などはどうかという意見に繋がるようにファシリテートする。 ☆何にこだわりを持って作成していくのか。 <ul style="list-style-type: none"> ・残りの総合的な学習の時間の時間についても触れ、実施可能な判断をするように促す。 	
<p>まとめ 振り返り (10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーは次回も課題設定の時間をとる必要があるそうか全体に確認を行う。 ・ループリック評価を行う。 		

板書計画

問：より幅広い人に世羅町を知ってもらうために自分たちにできることは何だろうか。

めあて
実際に案内した観光ルートについて再考し、どのように発信したら、世羅町に貢献ができるか考えることができる。

流れ

- ① エスコート当日の成果と課題を出し合う。問いに対する考えをグループで出し合う。
- ② 全体で交流を行う。
- ③ 現状としての結論をだす。
- ④ 振り返りを行う。

当日のアンケート結果

イベントの感想

各グループの意見

- ・甲山中校区だけでは観光できる場所が不十分であるから、世羅町全体をルートエリアにして考えた方がいい。
- ・オリジナルの観光マップを日本語版と英語版で作成する。
- ・パンフレットを日本語版と英語版で作成する。
- ・観光マップやパンフレットを作成して、お世話になった観光案内所や観光地に設置する。

まとめ
次回から～の作成のために〇〇に取り掛かる。